

令和5年度 SDGsの実現に向けた教育推進事業

市町名 上尾市

学校名 上尾市立西中学校

1 育成する能力

- ・生徒自身が持続可能な社会をつくる担い手としての資質を養う。
- ・自ら課題を設定し、解決に向けた手段を考え、実行し、再度課題を見直す力を養う。

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標



(2) 研究主題

未来に夢を持ち、持続可能な社会をつくる生徒の育成
～ESDの資質能力の育成に向けた中学校カリキュラムの充実～

(3) 研究仮説

- ① SDGsの視点から中学校カリキュラムを見直すことで、生徒が将来について主体的に考え、多様な他者と協働できる力を備えた持続可能な社会の担い手になることができる。
- ② 外部の団体と連携を図ることで、社会で起きていることを自分のこととして捉えることができ、一人一人の行動計画を考え・実践することで将来につながる資質を養うことができる。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働する企業・団体

【令和5年度 講演会企業】

- ① 出張歯科四つ木（医療・歯科医）
- ② カングロ株式会社（経営・コンサルティング）
- ③ 株式会社アイチコーポレーション（電気・建設工事用機械化車両の製造・販売）
- ④ トヨタカローラ埼玉株式会社（自動車販売）☆関連会社 埼玉県SDGsパートナー
- ⑤ 『ビザ衛門』国際行政書士事務所（国際行政書士事務所）
- ⑥ 株式会社ガスレビュー（ガス資源・インフラ設備）

(2) 連携・協働する主な内容

SDGsの17目標に関連する企業から、それぞれの職業の現状や課題について講演をしていただく。それぞれの分野から「まちづくり」に貢献できる取り組みには、どのようなものがあるのか考えて、知識を深めた。

4 事業実施概要

月 日	事業内容	場所	対象
R5年5月12日	1 学年校外学習 赤城宿泊体験 SDGsの視点をもって宿泊学習に参加し、国立赤城青少年交流の家での暮らしと上尾での暮らしを比較し、学んだことを振り返りでまとめた。	国立赤城青少年交流の家	1 学年生徒

R5年7月3日	3 学年校外学習 修学旅行 SDGsの視点をもって修学旅行に参加し、京都の町並みや寺院・施設で見つけてきたSDGsに関連する取り組みをまとめた。	京都府	3 学年生徒
R5年7月14日	校内研修 学校課題研究の主題と仮説を周知し、実施概要計画の提案をした。	職員室	教職員
R5年10月	2 学年 総合的な学習の時間 班ごとに課題を設定し、調べ学習を行い、内容をGoogleスライドにまとめた。まとめた内容を発表し、発表に対する意見を交換した。	各教室	2 学年生徒
R5年11月	3 学年 総合的な学習の時間 「現代社会のためにできること」というテーマでSDGsに関連する課題を見つけ、調べ学習を行い、まとめを発表した。	各教室	3 学年生徒
R5年11月22日	2 学年校外学習 東京校外学習 班で設定したテーマに合う施設を訪問し、SDGsに関連した学習を行った。	東京都 各施設	2 学年生徒
R5年12月22日	校内研修 教科・領域部会で年間指導計画の見直しを行い、SDGsとの関連について考えた。	職員室	教職員
R6年1月9日	校内研修 各学年で「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直しを行い、各学年のSDGsに関連する学習の内容を検討した。	職員室	教職員
R6年1月	1 学年 総合的な学習の時間 個人でテーマを決め、テーマに合った授業を受講し、知識を深めた。	各教室	1 学年生徒
R6年1月18日	企業講演会 「SDGsに関連する企業から学ぶ」	各教室	2 学年生徒

5 成果と課題

○ 児童生徒の変容

・生徒自身が持続可能な社会をつくる担い手としての資質を養う。

社会で起きていることについての知識が養われ、「他人事」から「自分事」として考える力がつき、個人での行動計画を考えることができるようになる。令和6年2月に実施したアンケートでは、「SDGsに関心がある」と答えた生徒は全校生徒の82.6%であった。

○ 学校全体の変容

・年間指導計画の見直し

教科・領域部会で年間指導計画の見直しを行い、SDGsとのつながりを考えることで、教科横断的に指導ができるようになった。また、総合的な学習の時間の見直しを行い、本校におけるSDGsに関連する授業内容の精査を行った。



・環境の整備

校内掲示物を作成し、SDGsが身近なものとして捉えられるようになった。



○ 令和6年度に向けての課題

・ファシリテーターとしての教員の育成

授業では、教師からの一方向の学習ではなく、ファシリテーターとしての役割が求められる。学年や学級によって違いが生じてしまうことを避けるため、校内研修など、教員の育成が必要だと考える。また、その中で負担感を無くしつつ取り組みの内容を考えなければ、意識に差が生じるため、出来るものの中から最大の効果を発揮する取り組みを検討しなければいけない。

・外部団体、企業との連携

外部との連携について、校内の取り組みに合う企業の精査に課題が見られた。講師派遣の報酬については、長期的な視点と全県での取り組みを考えると、無償で協力していただける企業が適切だと考える。また、今後継続をしていく際に、職員の異動なども考えると、関係機関との体制づくりが必要と考える。



(令和5年度 企業講演会の様子)

